

琉球大学学術リポジトリ

家の中にすむ害虫の話

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高良, 鉄夫, Takara, Tetsuo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20407

家の中にすむ害虫の話

私どもの身のまわりにはいろいろの害虫がおり、空き家でない限りどこの家にも人と一緒に昆虫が生活しています。その中には蚊やノミのように血液を吸うもの、カミキリやシロアリのように建物や家具類を食うもの、ゴキブリやカツオブシムシなどのように食品、衣服などを食うものもあり、数えあげると50種以上になります。

昆虫は一度や二度位駆除してもなかなか尽きません。昆虫は体が一般に小さく、繁殖力が著しく大きいので、その特性から考えますと数を減らすことはできても、これを地球上から全くなくするということは到底できません。そうかといつて駆除をしないで、そのまま放つておくと、害虫のために人間が耐えられなくなってしまうので、絶えず適当な時期を見計らつて駆除しなければなりません。

さて殆んど年中炊事場を荒しまわるものにゴキブリという害虫があり、これは一名油虫とも呼ばれ、方言では俗にトウビーラーといつています。この虫間は種類が多く、世界から2200種余りも知られており、琉球にはおよそ10種類います。大きい種類ではワモンゴキブリイエゴキブリなどがあり、小さいものではチャバネゴキブリが普通に見られます。

ゴキブリ類の体は巾が広くへん平で、表面は滑かな弾力性のある皮膚からできているので、ハエの出入り出来ない壁板の割れ目や、戸だなの僅かなすき間からも自由に出入りします。頭は自由に動かすことができ、口は蚊やノミと異なつてよくものをかじることができます。従つて家具類、皮製品、書籍、衣類、その他でん粉や砂糖を含んだ食品、日用品を食い荒すことはゴキブリの朝めし前の仕事です。

砂糖分のついた手でマユ毛をいぢると一晩の中にマユ毛を食い尽されてしまうこともあります。その他最も恐ろしいことは人ぷんやつば、動物の死体を食うことであり、便所と炊事場を往来して食物を汚す他にチブス、赤痢などの病気を媒介することです。体がへん平なので鍋の蓋や食器だなの戸を密閉しないと簡単に出入り

します。たなの中の食物に一種の悪臭を感ずることがありますが、これはゴキブリが荒したあとかたであります。またソーメン箱の中や引出しの中に、ゴキブリのくそが入っていることがあります、そのくその中にはいろいろの病原体がおり、一匹のゴキブリの体の内外には、およそ15,000匹の細菌をもつていますので、ハエよりも実に恐ろしいものであります。

ハエと異なつて日中は暗いところにかくれ、夜間に活動し、飛ぶこともできる反面、走ることも速いです。このように体のつくり具合とか生活の状態が他の昆虫と異なつているので、その駆除の方法にも自ら異なつた手段を考えなければなりません。

ゴキブリの口はものをかむようにできているので、毒物を食べさせて駆除することも一つの方法であります。それにはひ酸鉛又はほう酸を6-7倍のでん粉と少量の砂糖に混ぜ、容器に入れてゴキブリの出入するところにおきますと、数日後には、その効果がみられます。

またゴキブリの出入する場所やかくれ場所、即ち台所の壁、特に炊事台の後方、押入れの隅角、便所の床下又は便所に隣接した物置き、本だなや食器だなの内面、引出のひつきなどに薬液を噴霧器で散布するか、又はブラシ布片を用いて塗つておきます。薬はクロールゼン、リンデンなどを主成分とした乳剤、油剤を用いると非常に効果があります。これらの薬剤は僅かの量では人間に無害であります、量が多いと毒になるので、食物や食器にはかからないようにしなければなりません。

次にゴキブリは暗いところを好むので、ビールビンなどのようなビンの中に菓子くずと紙くずを入れ、ゴキブリの出入するところにすておきますと、好んでその中に入り逃げ出すことができません。ビンの代りに手ごろの厚紙箱を用いても誘殺することができます。

時たま炊事場に長さ7mm位の黒いずんぐりした蜂が飛んできますが、これはゴキブリヤセバチというものでゴキブリの卵の中に寄生してゴキブリを駆除してくれる有益虫ですから、保護して可愛がつて下さい。

(高良鉄夫)